



安城ロータリークラブ 週報
ROTARY CLUB OF ANJO

●NO. 525 2011/12 第2例会●



2011-2012 RI テーマ

テーマ 『 Let' s Enjoy Rotary 』

- 創立日：S33年1月10日 ●RI加盟認証日：S33年2月6日
- 会長：沓名俊裕 ●会長エレクト：大見 宏 ●副会長：石川 博 ●幹 事：永谷文人
- クラブ会報：神谷 研 寺田孝司 恒川憲一
- 例会日：毎週金曜日 12:30~13:30 ●例会場：碧海信用金庫本店3F / 安城市御幸本町15-1
- TEL: 0566 - 75 - 8866 ●FAX: 0566 -74- 5678
- Email: anjo-rc19580206@katch.ne.jp ●HP: <http://www.anjo-rc.org>

第2666回例会

2011年12月9日(金)12時30分から13時30分
司会者：山口研君
ソング：「我等の生業」
卓上花：プチモニ（ミニバラ）
ゲスト：神谷明文君（安城）
高橋直紹弁護士
ビジター：小野正富君（岡崎南）

出席報告

出席委員会 内藤教恵君
会員57名 出席義務者44名 出席33名 欠席11名
内出席免除者の出席10名 出席率79.62%
修正出席率11月18日第2663回例会94.54%

会長挨拶 会長 沓名俊裕君

(連絡事項)

- ・12/1 川本において、西三河分区第二回会長幹事会が開催されました。

次年度ガバナー補佐が紹介されました。



- ・12/1 東海東京証券ワインパーティが開催されました。ロマネコンティーなど貴重酒が振舞われます。
- ・12/11 サルビアホールにて安城学園演奏会が開催されます。

演目：ベートーベン「第九」

時間：14:00~

料金：2,000円

(あいさつ)

本日の元気印企業をご紹介します。

その企業は、創業12年にして、プロ野球球団「横浜ベイスターズ」の買収を許され、プロ野球界へ進出した株式会社ディー・エヌ・エー（DeNA）です。



その株式会社ディー・エヌ・エー（DeNA）にて、永久に“ベンチャー“といい、新しいことに挑戦し続け、①人は“仕事”によって育てられる、②発言責任（役職にこだわらず考えを述べる）を持たせる社員教育を進めるのは、創業者（現：取締役）の南場智子氏（なんば ともこ）です。（女性なので年齢は？とします。ただ、とてもお若いです。）



南場智子氏は、1986年マッキンゼー・アンド・インクへ入社（コンサル会社）し、1990年ハーバード大学でMBAを取得し、1999年株式会社DeNAを設立しました。2005年にはマザーズへ上場（2007年東証一部上場）し、2006年に携帯電話のゲームソフトのモバゲータウンを開始しました。そして、2011年横浜DeNAベイスターズが誕生しています。

株式会社DeNAは、2011年3月期現在、売上高1,127億円、経常利益562億円、資本金103億円、時価総額3,714億円（東証一部）です。株式のうち、南場氏持分は21,641千株（14.3%）です。

創業当時、外注が事業に失敗したことをきっかけに、業務を内製化し対応できないかと模索し、優秀な人材を採用する

募集しています

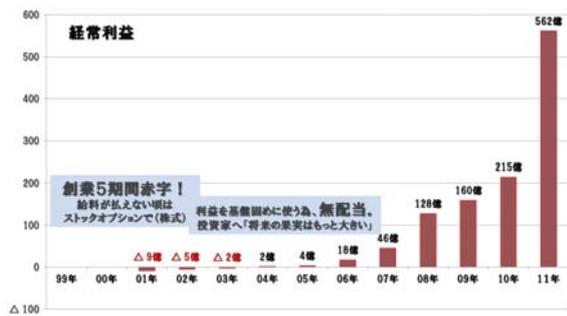
- ・親睦活動委員会 横山真喜男君

12月25日の会員家族親睦クリスマス例会
アトラクションの景品を募集しています

ことで事業を安定化し飛躍的に発展させました。その時に採用した主な人材は、現在の会社のリーダーである、春田真会長（42歳京都大学卒）（2000年入社三井住友銀行出身）と守安功社長（38歳東京大学卒）（1999年入社モバゲーの仕掛け人）がいます。

㈱DeNAは、「Yahoo!」の立場にどうしてもなりたいと強い決意と目標を掲げています。また、会社の「器」は経営陣で決まるとし、優秀な人材を採用し育てています。

1999年にオークションサイトを開始し、2004年に携帯オークションサイトを開始し、ようやく黒字化し業績が軌道に乗りました。2006年モバゲータウンを開始し、2010年ヤフーと業務提携ができ、2011年経常利益562億円を計上するほどの爆発的な業績を確保しています。



本日のまとめは、『苦しい時こそ、前のめりに立ち向かえ』とします。

プロ野球球団「DeNA横浜ベイスターズ」



<目標> 春田真 会長 (写真: 右 42歳)
 「来季最下位脱出、3年以内にクライマックスシリーズ進出、5年以内に優勝」
 ・池田純 球団社長 (写真: 左 35歳 DeNA執行役員)

幹事報告 幹事 永谷文人君

*例会終了後IM実行委員会を会議室で行います。
 *国際ソロプチミスト主催のチャリティー講演会お知らせがきております。
 チケット2000円、事務局にて申し込み受付中です。
 *12/28(水)6:30川本にて忘年会を行います。

ニコボックス報告 戸谷央君

本日のニコボックス情報の紹介。

卓話

- ・テーマ：子どものパートナーを目指して（子どもセンター「パオ」）
- ・担当者：神谷明文君（安城）
- ・卓話者：高橋直紹弁護士

特定非営利活動法人・子どもセンターパオ理事
神谷明文君 卓話者紹介

少年事件を扱うと困難な問題が非常に多く存在します。

少年院から出てきた子供に対しどう対処するか？
 どこかの施設で働いてもらえないか？

そんな問題点を解決しようと運営されている施設が、「パオ」という施設です。

そして、その事務局長が高橋弁護士です。少年事件を扱う弁護士は無報酬に近い報酬で活動しています。

皆様もどうかご支援をいただきたく、よろしくお願いたします。



高橋直紹弁護士



神谷明文君

高橋直紹弁護士

神谷弁護士のお話のとおり子どもの事件はお金になりません。ほとんどが自腹で活動しています。

弁護士が少年事件を起こした子どもと関わってみると、ほとんどがその子の家庭に問題が多いことに直面します。そんな劣悪な環境の中で、自分なんかいないといいと自暴自棄になり重大事件をおこしています。

年齢が18歳を超えた子供は児童相談所の管轄から外れてしまいます。18歳から20歳の少年少女たちが悲惨なのは、そんな児童虐待する親と関わらないといけ



安城ロータリークラブ 週報

ROTARY CLUB OF ANJO

ないことに加え、児童相談所は法律上彼らの相談に乗ってあげられないことです。少年院から出てこられた少年少女たちが、児童虐待した親が身元保証人として、全うに行動できるでしょうか？

そのために、我々は彼らの緊急避難場所となるシェルターを作りたいと模索し、平成18年に「パオ」を設立しました。

ただ、年少少女たちの安全上の理由により、「パオ」の設置場所や規模などは、公表できません。極秘です。彼らについて言及すれば、男の子の就業先は少しはあるが、女の子の就業先がないのが実情です。

現在、我々は女の子に必ず一人の弁護士が付き援助するようにしています。平成19年4月から19名が「パオ」を利用しています。

彼らは、暖かいご飯を食べたことがない、誕生日を祝ってもらったのはここ（パオ）がはじめてだったという子供たちがほとんどです。女の子はほとんどが性虐待を受けており、その傷はとても深く一生消えないし尾を引いてしまいます。

多くの子供たちが、緊急避難場所を出て自立援助ホーム（就労が目的の施設）に行き、そこで就職先を紹介され就職するが、社会生活に馴染めず失踪し、失踪先で出会った見ず知らずの人と過ごし、嫌になるとまた失踪し転々と流浪を続けてしまいます。その間は当然支援弁護士と連絡が取れなくなってしまいます。人格がまだ確立しておらず就労援助施設では生活できず働けない子供がほとんどです。

そこで我々は、社会に出る前にもう少し時間をかけて社会に旅立つパワーを貯めてもらうために、社会への一歩手前の施設といえるステップハウス「びあ・かもみる」を平成23年11月にスタートしました。

幸い平成23年4月から厚生労働省の考え方が変わり、就労を前提としない施設でも児童福祉法の自立援助ホームと認められ、職員の給与程度の助成金がいただけるようになりました。ただ、施設運営にはまったく資金が足りません。細く長く支援することが大切ですので、皆様のご支援をいただきたくお願いいたします。

子どもを常に社会の大人たちが見守れる社会、子どもが大人を信じれる社会が実現できるように、祈っておりますし、そんな社会が実現できるように今後も微力ですが活動していきたいと思っております。

補遺【子どもセンター「パオ」について】 神谷明文君

親や保護者から様々な虐待により、傷つけられ、見捨てられている子ども、安心して帰る場所のない子どもが

存在します。そのような子どものための施設としては、児童相談所の一時保護所、児童養護施設、自立援助ホームなどがあります。



しかし、児童相談所では、受入人数の問題や年齢制限などから保護には限界があり、児童養護施設などでは、今晚泊まる所がないとか、帰る家がないという場合の緊急の対応が難しい。それでも目の前の困っている子どもを放っておくことはできません。関わった大人がやむを得ず自宅に泊めたという例もありました。

そこで、平成17年11月、子どもの虐待問題・人権問題に取り組む弁護士、児童相談所の元所長や職員、児童養護施設長、自立援助ホーム施設長、女性相談センターケースワーカー、社会福祉士、精神科医など子どもに関わる専門職らによって準備会が立ち上がり、平成18年に特定非営利法人子どもセンター「パオ」が認証され、平成19年に子どもの緊急避難場所、シェルター「丘のいえ」を開設、平成23年11月には自立援助ホームとしても正式に認められたステップハウス「びあ・かもみる」を開設しました。

シェルターは2週間から2ヶ月程度の一時避難所ですが、ステップハウスは傷ついた子どもたちが半年から1年くらいの間、少し時間をかけて心を休める場所、社会へ出て行くパワーをつけてもらう場所と考えています。

ステップハウスの運営には、年間2,000万円ほどかかります。中身は、備品費、24時間体制の常勤スタッフの費用、子どもたちの衣服、食事等の費用です。行政からの補助金や公的援助は一切ありません。児童相談所から一時保護委託を受ける場合には一時保護委託金が出ますが、一人一日1,500円であり、実費を賄うにも不足しています。

パオの収入は、会費収入と寄付、企業などの助成金に依っています。会費収入は年間50万円程度です。上記のような子どもたちへの支援活動を行っていく上での経済的基盤は不安定です。

どうかこのような子どもたちへの支援活動をご考慮いただき、是非とも安城ロータリークラブ並びに多くの方々のご支援をお願いいたします。

連絡先：安城ロータリークラブ内
弁護士 神谷明文